

扶桑皇統記圖會

後編

一上

3
2472
7



門へ遠13
2472
7



扶桑皇統記圖會後編叙

本報 天武帝の御事。今に在りて
千有餘年。融貫の美日。高代知
る。良を稱。天地の徳。悠久。此
石の巖。懐び。皇國
と。天地の風。時。一
して。地。山。一。

扶桑皇統記圖會後編叙

浪華好萃堂主人著編
同柳齋重春先生画圖

扶桑皇統記圖會

後編
全七冊

愛知書肆 松屋書店藏

日輪並び出はるる。かゝる時々のいふ
 には、漢のふと、たゞ、そのまゝ、いふ、
 治るる、事、な、ま、國、の、事、か、つ、く、人、民、中、に、
 王、位、を、お、も、つ、高、貴、を、處、し、人、民、を、統、治、
 せ、し、を、記、す、兵、革、闘、争、の、機、を、お、も、つ、
 天、の、業、時、時、を、お、も、つ、た、れ、と、所、謂、
 時、の、い、ふ、事、を、い、ふ、事、也、と、い、ふ、也、本、報、の、

歴史の載り始り。其の用は、
 易の、易の、
 書に、
 稱、
 出、
 朱、
 神、 出、
 稱、
 出、
 朱、
 神、

海宇一統を。初ては二千有餘年の。治
亂得ま。人臣の善惡を。たゞし。と。更。め。り。
天の變。地。好。む。正。史。の。ら。る。る。を。た。げ。て。
大成。を。む。こ。既。に。その。好。を。お。も。は。せ。
い。つ。も。僅。に。輯。し。て。大。志。を。果。す。べ。し。空。く。
天下の。鬼。と。年。ぬ。然。る。に。遠。回。刻。成。て。世。に。
公。の。心。を。た。げ。て。集。録。し。て。序。論。を。余。に。請。

余は。その。野。史。の。國。を。隔。て。し。て。一。面。に。
識。せ。し。む。る。は。た。し。か。ら。ぬ。い。つ。も。新。
進。せ。ば。其。の。無。い。に。其。弊。害。を。卷。揚。に。
述。せ。し。む。の。難。事。の。下。に。構。へ。し。て。人。
と。時。を。あ。ら。な。く。成。果。と。す。

東都
和泉主人 頌





誇君籠七賢臣
 暫時雖在其位
 暉其威上天責
 其惡羅異病
 兩耳青蛇淨
 藏持念雨傳
 世俗不知信偽

藤原
 時子公



万葉

浦島
 太郎

少主人
 何れも
 海に
 舟を
 乗せ
 たり





黃門行平
忽起心兵
戲言出思
和歌

發情
不邪
不媿
右大有名

繪島風韻
全非鄭聲

松風
村西



陽成帝乳
愛嬪也
妬婦奸計
一朝露

御製
筑波根之
峰後
落浮水
無能川
憲骨積而
剛止成

奴田

扶桑皇統記圖會卷中總標目後篇

皇統記圖會後篇

一上

光二天皇却治世

奧刃兵乱征将下向條

於阿隈河官軍与夷賊搏戰

大洋益立敗軍之條

於阿隈河官軍与夷賊搏戰

大洋益立不覺之條

金窪兵太勇と揮つて京軍と責破る圖

瑞雲禪師化度安達條

金窪義心贈于敵曹

苦肉計畧安達燒敵柵條

桓武天皇御即位

不破内親王母子流罪條

安達八郎又心術と以て空獄と破り却て敵方小降参る圖

蝦蟇合戦至異之條

東征使凱陣賞討

早良親王謫罪憤死條

宇佐八幡宮託宣并神傳

早良親王謫罪憤死條

山城國長岡郡都經宮

早良親王謫罪憤死條

早良親王の命と受て継人竹良密小種繼と射る圖

早良親王謫罪憤死條

築再新都造宮大内裡

早良親王謫罪憤死條

山城國鞍馬寺開基

早良親王謫罪憤死條

卷之二

山城國鞍馬寺開基

早良親王謫罪憤死條

一上

光二天皇却治世

奧刃兵乱征将下向條

於阿隈河官軍与夷賊搏戰

大洋益立敗軍之條

於阿隈河官軍与夷賊搏戰

大洋益立不覺之條

金窪兵太勇と揮つて京軍と責破る圖

瑞雲禪師化度安達條

金窪義心贈于敵曹

苦肉計畧安達燒敵柵條

桓武天皇御即位

不破内親王母子流罪條

安達八郎又心術と以て空獄と破り却て敵方小降参る圖

蝦蟇合戦至異之條

東征使凱陣賞討

早良親王謫罪憤死條

宇佐八幡宮託宣并神傳

早良親王謫罪憤死條

山城國長岡郡都經宮

早良親王謫罪憤死條

早良親王の命と受て継人竹良密小種繼と射る圖

早良親王謫罪憤死條

築再新都造宮大内裡

早良親王謫罪憤死條

山城國鞍馬寺開基

早良親王謫罪憤死條

卷之二

山城國鞍馬寺開基

早良親王謫罪憤死條

奥刃夷賊蜂起官軍敗績

重而東征使下向條

鞍馬の峯延法カとつて大蛇と退治す條

重而東征使下向條

感皇夢大養得奇子

坂上田村九遇延鎮條

官軍与夷賊于奥カカ合戦

田村九武勇言大熊九條

田村九明者賊の幻術と拵り賊將大熊九と討圖

田村九武勇言大熊九條

毘沙門地蔵の二尊雲中小頭り

田村九軍援る圖 其二

延鎮語兩股士奇特

田村九建立清水寺條

平城天皇御即位并讓位

老人寿星出現大救事

天皇賀茂齋院御幸

嵯峨天皇受禪南都擾乱

浅山玄五遺盜難入水

有智子齋院詩作條

浅山玄吾湖水小舟で渙舟の為に命と助る圖

渙文兵太湖上眺浅山事

浅山過入隱室遭危難

有智子齋院詩作條

无頼の悪僧隱室と見らる浅山と捨小る圖

有智子齋院詩作條

阿波大滝山土佐室戸崎苦行事

有智子齋院詩作條

阿波大滝山土佐室戸崎苦行事

有智子齋院詩作條

阿波大滝山土佐室戸崎苦行事

有智子齋院詩作條

阿波大滝山土佐室戸崎苦行事

有智子齋院詩作條

阿波大滝山土佐室戸崎苦行事

有智子齋院詩作條

阿波大滝山土佐室戸崎苦行事

有智子齋院詩作條

阿波大滝山土佐室戸崎苦行事

有智子齋院詩作條

阿波大滝山土佐室戸崎苦行事

有智子齋院詩作條

阿波大滝山土佐室戸崎苦行事

有智子齋院詩作條

阿波大滝山土佐室戸崎苦行事

有智子齋院詩作條

皇統記圖會後篇

字二

室戸の菴室小惡龍現空海と試と圖

空海師入唐求法以五筆書詩水上題詩條

文珠童子小現空海小奇瑞と見せりゆりの圖

空海師歸朝鎮難風投筆并隔溪書額條

東大寺蜂怪南圓堂建立高野山開發伽藍造立事

清滝川と隔て空海額の文字と書圖

東寺賜空海西寺賜守敏空海守敏法力優劣條

嵯峨天皇御讓位守敏空海初兩争行力條

女人禁制と犯して空海の母種々の怪異小のの圖

母公阿刀氏望登言向野山山中怪異慈尊院之條

放巨龜浦島到蓬萊開王午宮浦島老死條

浦島か子蓬萊小至り遊宴歡樂と極むの圖

仁明天皇御即位大内小野皇流罪之條

伊勢齊宮及建野々宮恒貞親王隱謀露頭條

小野皇夢小閻羅王宮へ到る圖從豐後國獻白龜

良岑宗貞詠哥道世條

文德天皇御即位深草の帝の陵へ諸人群泰の圖

惟喬惟仁の御位争ひ位争名虎良雄角觝條

清和天皇御即位伴善雄犯罪流刑の條

卷之五菅家系譜角觝盤觴之條

陽成院御即位菅家系譜角觝盤觴之條

野見病菅家系譜角觝盤觴之條

春彦菅家系譜角觝盤觴之條

陽成院意釣殿君御製於良香宅菅公試射條

異形狂病乱行閑居條

光孝天皇御即位行平詠述懷歌被為謫條

行平須磨の浦行平詠述懷歌被為謫條

清和上皇御登霞禁庭種々怪異の條

都良香得鬼神奇句菅公一時作十詩條

羅生門時平乱行奪叔父妻條

醍醐天皇御即位時平乱行奪叔父妻條

卷之六

朱雀院朝觀御幸

三善清行贈菅公諫書

三善清行天象と見て菅公の書と奉る圖

仁和寺の法皇主上と諫め奉るの宮門小立せりの圖

菅公遺言道明寺木像

菅公於配所詠詩歌

菅公天拜山祈願并薨去

菅公法皇築紫雙臥

菅公筑紫天拜山祈願の圖

洛中天言内裡雷災

奸徒雷死法性坊行力條

時平患奇病薨去

光定國菅根衰死洛中洪水條

太宰府天神宮居の圖

延喜帝御讓位四海太平條

菅公贈官賜神号

通計七十一條總標目畢

扶桑皇統記圖會後編卷之壹上下目錄

正 光仁天皇御治世

奥州兵乱征將下向條

金窪膽澤強勇力戰

大伴益立敗軍の條

於阿隈河官軍与夷賊撰戰大伴益立不覺の條

金窪兵太勇と揮つて京軍と敗る圖

瑞雲禪師化度女達條

下 金窪義心贈千敵曹

桓武天皇御即位

三善清行天象と見て菅公の書と奉るの圖

安達八郎忍術と以て牢獄と破却て敵方へ降参る圖
 東征使凱陣賞罰
 不破内親王母子流罪條
 宇佐八幡宮託宣美神傳
 蝦蟇合戦怪異の條
 山城國長岡都經營
 早良親王謫罪憤死條
 早良親王の命と受て継人竹良密小種継と射る圖
 築再新都造營大内裡
 釋最澄開基延曆寺條

目錄終

扶来皇統記圖會後編卷之壹上

大正六年一月十五日
本校出版部 氏贈

光仁天皇御治世

奥州兵乱征将下向條

浪華 好華堂野亭参考

人皇四十九代の聖王光仁天皇と申奉るは天性帝徳を備のひ先朝の徳弊
 政を改め賢を奉不肖と退け絶えと與り廢ると主万民を子の如く撫恤
 のひりる宇宙昇平して四海波静なり多小世小止がた女色の惑わく一女子の
 故より東國ふ忽ち石時の兵革起りたり其濫觴と尋る小室龜十年小紀
 廣純とい人陸奥守小任せしめて奥州へ下り國の政道を執行ひるが此廣純ハ
 大納言兼中敷卿の孫從四位上紀宇美の息男とを推勢重く個人も厚く
 敬ひ尊び多小廣純元来徳を脩む權威を專小して我意の裁判多且色
 好む癖ありは小奥州の住小伊治此名とく者ありて其本ハ蝦夷の嶋夷乃



種類あり多し。生貨剛勇なる上頭者。臆畏有るを。麾下小属する者。追々多
く。かりて。數郡を領し。勢強り。此皆大呂兼て心をひて。思ひ通ふ女あり。其
容色衆小勝。都耻し。風姿なり。廣純傳きて。思ひ小あられ。度
く。文を贈て。口統々。女。此皆大呂が思ふところ。悼りて。一度も返せ。難面
て。過ぐ。廣純。心を悩む。是皆大呂が有。小麻。ぬ。下。と。家
人。小余。一。夜。暗。女。夜。潜。入。せ。有。無。を。言。せ。と。理。わ。く。女。と。奪。と。せ。我。館。
迎へ。百。般。言。を。尽。し。り。口。統。々。流。石。浅。う。なる。女。心。と。と。き。も。年。月。契。
皆。大。呂。の。吏。と。志。廣。純。の。心。小。從。ひ。多。し。廣。純。大。子。悦。び。女。と。電。意。交。する。吏
他。小。異。なり。多。し。皆。大。呂。最。愛。の。通。妻。或。集。取。ま。心。然。也。怒。憤。れ。も。國。司。の
威。勢。小。壓。して。奪。返。と。吏。能。く。と。し。時。即。と。窺。ひ。此。心。と。報。せん。と。め。と
無。念。を。隠。し。と。色。小。見。ま。と。多。く。の。賄。賂。を。廣。純。小。贈。り。祥。と。媚。使。ひ。れ

む。廣。純。實。小。伏。從。せ。と。思。ひ。心。う。ち。解。り。万。端。隔。なく。皆。大。呂。と。商。議。し。聊
も。疑。心。なく。何。の。要。慎。と。も。せ。ざ。り。多。し。皆。大。呂。廣。純。を。誑。か。ま。と。と。独。咲。し。時。を
窺。く。中。小。一。時。廣。純。が。麾下。の。諸。士。國。政。小。就。て。諸。方。の。郡。縣。別。れ。赴。け。廣。純。の
館。も。も。と。無。人。たり。多。し。皆。大。呂。須。波。待。殺。する。時。節。と。さ。ん。な。れ。と。兼。て。隨。身
せ。野。武。士。膽。沢。悪。太。郎。金。津。兵。太。大。と。強。勇。の。溢。者。を。先。と。て。突。竟。の。者。二
百。余。人。小。武。具。させ。夜。中。前後。二。隊。小。か。き。廣。純。が。館。ひ。ひ。と。押。寄。先。表。門。向
ひ。も。膽。沢。悪。太。郎。一。百。人。小。下。知。を。傳。へ。倉。平。小。松。明。を。點。し。連。一。夜。小。喊。を。嘯。と。お。け
表。門。を。亦。破。て。我。先。と。亂。ま。入。れ。廣。純。が。家人。們。思。ゆ。め。不。意。の。夜。討。小。奈
周。障。強。動。し。太。刀。よ。り。と。争。た。上。と。下。と。ぞ。及。ぶ。廣。純。も。仰。天。あ。が。り。必。定。野。武
士。山。賊。の。属。あり。何。程。の。吏。あ。ん。蹴。散。せ。と。下。知。し。多。し。折。節。在。番。の。武。士。無
人。小。在。合。せ。衛。士。五。十。余。人。主。の。下。知。を。承。て。太。刀。先。と。揃。へ。亦。入。者。と。散。く。小。切。拂。ひ

門外へ追出せ。膽沢悪太郎も味方を励し、切進んで敵を門内へ追込。此互小
 追つ返ら、討つ討まると挑む戦ひ多し。内訾大員、金窪以下百余人、小を襲門を
 歩破り。松明揮立て、乱入を女童泣叫んで逃送す。情あは荒夷も當を
 幸ひ、此所彼所、切伏多し。此大呂緒率、小下知、彼奪き、女を生捕と命が
 々る小より、兵士の館の間、毎々を尋搜し、遂に彼女を搦捕多し。廣純、表小在て
 味方の士卒、小下知と傳て在る小。裏門より、賊兵乱入せりと、定て再び、該死十人
 余の家士を従へ、興へ引返すと、小端なく、訾大呂と往合す。訾大呂、廣純
 と、小より、眼を腫し、太音小いふや、廣純、此國の守る大任を蒙り、あは仁
 義を旨とせ、貪利を專として、國人を虐げ、昔、刺我愛妻を奪取て、娼樂
 成、心小も、不義無道、言語日断なり。故に國人、恨皆於我、小勸て、今夜、你を討
 しむる所なり。已が罪己を責ると、觀念し。我一刀を受けて、冥府へ赴よと、罵り、名を

廣純、安そ、大に怒り、思と、んく、思と、知る人、面、歎心、天、對の、程と思ひ、志、を、を
 太刀、抜、拵として、擧て、くる小。訾大呂も、望む所の、妻、敵と、い、く、太刀と、揚て、一、往、一、来
 戦、一、更、二十、余、合、い、ま、こ、雌、雄と、決、せ、ざる、所、小。金、窪、兵、太、弓、矢、は、く、く、兵、と、切
 く、放、る、を、過、と、廣、純、が、胸、板、より、背、に、と、射、通、し、る。大、更、の、手、あ、れ、訾、も
 堪、ど、苦、と、叫、んで、仰、及、小、什、多、と、訾、大、呂、透、さ、と、走、寄、り、首、と、撞、く、と、多
 主、を、討、せ、り、残、る、即、黨、們、今、六、維、が、為、小、命、と、賄、ふ、と、銘、く、賊、兵、小、と、合
 刺、違、て、死、する、も、有、或、ハ、自、身、腹、搔、切、て、死、する、有、て、主、從、六、十、余、人、は、枕、小
 討、死、する、と、哀、れた、る。賊、兵、も、五、十、余、人、討、て、手、負、ハ、算、る、小、違、ふ、れ、ど、夜、討
 小、ハ、全、く、勝、れ、を、賊、徒、們、大、小、悦、び、倉、粟、小、乱、入、り、金、銀、財、宝、絹、布、と、冬、々、集、み
 掠、め、館、小、火、を、掛、り、焼、立、勝、鬨、を、揚、て、引、退、れ、る。是、小、依、て、諸、民、大、小、該、死
 強、だ、東、西、南、北、へ、逃、れ、走、り、泣、叫、ぶ、声、四、竟、小、震、り、許、かり、是、より、訾、大、呂、ハ、勢、ハ、壯

小たり。尚も野武士山賊を招れ聚り。要害の地小柵を構て楯籠り郡郷を
 犯し掠め次小横行して威を國中と奮ひたる。是小依て隣國の守護國司
 大不致れ都へ馳馬致して急と告る。吏擲の齒を挽が如し。時小世六六彼
 日の愛妻と牢獄より縛索の申曳出させ。眼と瞋と眦と睨とやれ。媼婦
 你年来の我恩義と忘もくも廣純が心小従ひ多る。世の鏡小も言む。己人
 小雞面を人する。己小雞面と始不便を加し。小今日百倍と憎しと罵り。太刀を
 抜て心下と刺串れ。女小叫び地小叫び七瀬八倒してと死し。さる。此六六ハ
 是を快しとち咲ひ其屍を野外小捨させ。其後國中の美色ある女人の妻妻
 とも言せ。奪取て己が側室と。恣小嬉樂て上足ぬ。轉鳥のくく。不義の歡樂と
 とを究り。去程小都小東國より急馬の来る。吏引も切む。伊治世。名國司紀
 廣純を攻殺し國中と犯して逆威を奮り。松々る小。光仁天皇致せし。

文武の百官と召れて御評議の上中納言経繩を征東大使と。大洋丞並立紀占佐
 美を副將軍として軍勢九千余騎を授け。奥州の賊徒を征伐せし。め。己
 又安部家。名と鎮狄將軍と出羽國と守り。め。斯て東征の將軍定り
 ら。経繩益立古佐美と朝廷召し。右大臣と以て紹命と傳り。め。今般
 奥州の兇賊國司と殺し。郡縣を侵して國中と擾乱し。你等疾く東國へ進發
 し。賊徒を討夷け。二國と平定せむ。忠戦を励し。軍功を立る。軍功を立る。紀
 録して。捧よ。平定の後其功小應。賞禄と。二將此倫命と奉り。を
 て。延上。小拜伏し。臣們勅命と首小頂。東國小弛向ひ。命と。拙て軍戦を励し。不
 日小勝軍と奏し。啓奏し。禁廷を退出して。列位私邸小飯り。出陣の準備
 を整て。宝龜十一年四月下旬。各將軍。花嚴小飾り。都と。發足して。東國へ下
 り。禁廷より。東國へ。兵糧米と運送し。と。觸つ。と。

金窪膽沢強勇力戦 大伴益立敗軍之條

伊治皆石原征東の臣軍下向とるよとて。後黨の者どもは聚て軍議を
かり。官軍の寄来るを路條の惡所難所柵を構へ其往來の路と塞だ。民
家と毀く楯と造り。富る者の禾麦と奪取て兵糧小宛京軍寄来らむ微
塵小せんと待く。就中白河の関の柵小此上原が両翼と憑切る。金窪兵太膽
沢悪太郎兩人を主將と。七百余人を箠置ける。抑金窪膽沢兩人は身杖
六尺七寸す。力量万人小勝。是奔馬と抑止。鹿角をも曳裂走る。弓馬事物
の達者多し。要害第一の柵を固りさせざるあり。去程小官軍は五月七日奥洲小
下著。陣營と構て三日の間軍馬は休め。諸軍の評議。大伴益立と先陣と
紀古佐美と三陣と。三陣は大将藤原継繩と定めり。斯て兵馬も十分疲を休れ
む。先陣大伴益立二千騎小押出と。小軍珍々若殿們逸り立寄合勢の野武士

野盜の奴も何程の妻有。た只採小踏破れよ。飽まで敵を縋り。勇進を敵
の柵へ押寄る。逆茂木間粗小結所小大石を捨散。墓々小備も無体も
されどと思ふ違は。あふ不便の夷賊ども。由た支へて。懸金小あらん。更乃
衣さよと一笑。後陣の續く。然も待合さむ。ひくと押寄。鯨波と殺り。楯と衝
む。弛寄り。逆茂木拔捨。己小門隙へ通。り破んとす。此時。す。賊兵を態と鳴と鎮
めて居る。敵の近く寄る。成を。勿心。柵門を八文字小開た。金窪兵太二
百騎の士平と率て。率て出。る。兵太が其日の軍装。小里革威の大鎧を著。一鉞形
ち。二枚兜の緒と。締四尺余の野太刀。小三入寸の太刀。十文字小帶。添長八寸。余る。鹿
毛の筋の太く。逞。小鏡鞍置て。ゆ。と。跨。二丈余の鐵鉞。まげ。ち。棒。と。真向
小揮。搦。真先。小。大。喝。寄。兵。小。堅。て。る。小。從。兵。平。由。喊。を。發。り。得。物。と
携。乃。て。我。先。小。切。る。思。け。め。寄。兵。大。小。周。障。一。急。小。退。り。備。と。立。人。と。さ。る。間。も

小握り角々小間ゆかりの矢飛来つ胸板の正中と背骨ひく射通るふど何ふ
 以く堪ぬるか心ち馬より真逆小嚏と落二言と言と死たりる是を以て京軍
 の中より平郡武植田郡司十名勇夫といへる者當の敵道きいと三士ひく馬と拍
 て近出一膽沢一人を三方より取巻て撃てくをを悪太郎心得たりとら投捨て
 太刀抜拵し三人を對手ゆとり右小峰左小拂ひ秘術を尽し挑と戦ひ多柵とを
 是を以て膽沢討まんとて城門を用て二百人斗ちて出ると京軍も五百余騎あて
 け向ひ喚叫で攻戦一内小膽沢平郡武を一刀斬て落し及と刀小植田と續て討
 んととる京軍次もきり者あれを急自身と沈めると胆沢余り強く空を
 切馬の尻余されて平頸を越大地倒と落りり郡次勇夫得る賢といく馬
 より部下卸重て押く首と掻んとると小膽沢刃及て起立兩人を両手小抗
 力小任と敵中嚏と投すれを勇夫と士卒二人を撃仆し斤足を折りよく小

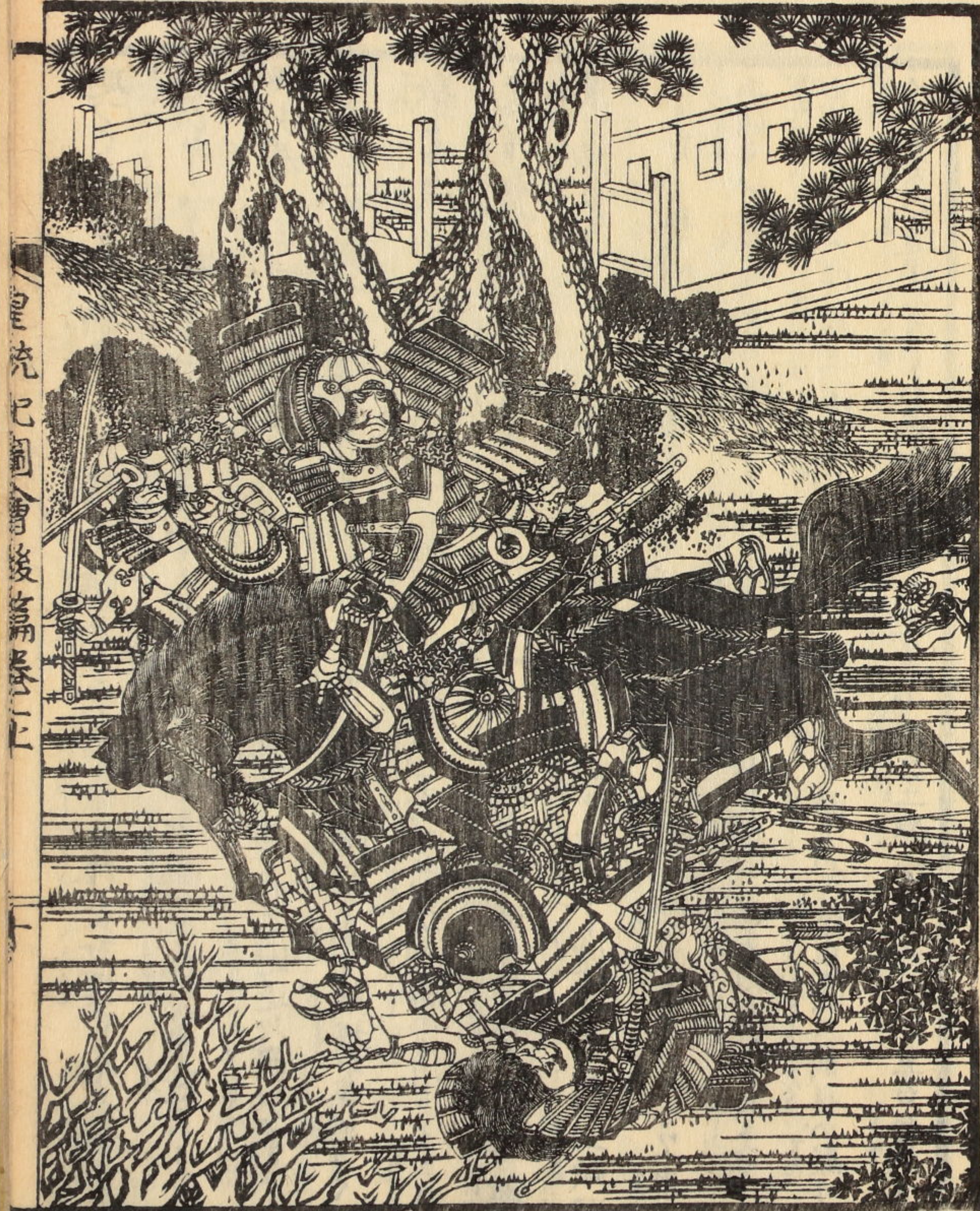
逃延て命をとり助りたり郡司ハ投られて落るふ首の骨と突折り即死し織
 小膽沢が止人間業ふんをきりり悪太郎ハ又馬小抄乗太刀と電光のり小間
 くと敵中と縦横無尽の蒐回リ敵を討吏敷をきりり是小依て京軍膽沢一
 人小斬りしれ隊移くと乱れ浮足ふかりん賊軍の勢ハを増養地暗小蒐立
 々大伴益益先隊の戦ハ難義なりと云是を救んと残る五百騎を二隊と
 押出さんとする所所思もよぬ山陰より金蓮兵太三百騎あて殺出す益益が勢ハ
 不意の敵小周障一先隊と救く違なく金蓮が勢と喚叫んで戦たり此時賊方
 と敵の後陣小鯨波のやむる成以く金蓮の勢の敵の後陣(伐入)と知柵小残る
 二百人も伐り出膽沢が勢と二隊小成敵を追捲るふいと浮幸京軍提りの
 敗走り益益が陣(おれ)る益益は是と敵軍襲ひくるごと心得今叶かどく
 一番小馬と拍て逃出たりるふより徒卒も是小誘れ惣敗と成て散り小落行の賊

馬六勝小乗て追伐し思ひくわ取高路々。官軍の三陣紀古佐美先陣より
 追ふ後れく押出さるる。大伴益立初度の合戦小伐負しとて半途小勢と
 止め先陣の動止を合さむる。小益立が勢惣敗軍小及しと回報さる。同も
 早先陣の敗率追く敗来りさる。古佐美勢左左右引合て逃来り味方
 へ通し。敵追来らる横矢射んと積兵を揃矢襖を造て待つけり。されども
 賊方の敵の新兵左右小分して隊小謀有なり。長追おせと敵と追捨て半
 狂く柵へ入る。此日賊方討取者二百余級及びびる。半始よと悦びて勝因と
 發り京軍八兵を多く折た手負數多ふて大の軍威と損さる。
 於河隈河官軍と夷賊撰戦 大伴益立不覺之條
 大伴益立敵を狂んて不覺の敗軍。大將継繩氣色と損し益立と呼
 出し軍慮の足さると責叱り。又西三日軍議小日送り此度紀古佐美小千五

百騎を授て先陣と定め大伴益立小千五百騎を授て二陣と謀を定む。五
 月十三日の未明よりおきて金鼓を鳴し喊を造り軍威を示しと押寄る。敵も
 柵の櫓より防矢を射下。茲と大吏と禦さる。されも京軍六兼て手苦と定り二隊旁
 ろれを二隊入替り。二隊破るれを三隊入替り漸く小新兵を以て息も吐ず射れ
 どもおと。此とも瘧す。攻むるれ。賊方小勢といひ矢種及力劣さる。あへ
 京軍遠小城門堀を破り大水のこ入如攻入る。二陣の大伴益立小千
 五百騎もはく續て攻入る。小ど。賊將金窪膽次も其防がたを知手勢を引
 く柵の後門より落さる。是小依て紀古佐美白河の柵を乘取勝喊を發りさ
 大の勇と大將の本陣。斯と報し。つる。小ど。継繩大の悦び惣勢と率く柵へ入
 古佐美が手柄を賞美し其日白河小宿陣。翌日柵を焼拂てち味方小不案
 内敵の地理を知れし。伏兵を以て不意を伐んとさ。小わ。とて。行前物

見を出し惣勢八千余騎を十隊と首尾相佐る備をなして國府まで押到り玉
 造小館城を構て本陣と賊徒殊伐の謀を商議し多。賊將皆大員京軍
 玉造小城を構て筆電ありとまを釣出と當めて味方の武勇と示せよとて
 金窪兵太栗原源三兩人小五百人全授て先陣と。膽沢悪太郎松前荒鯨二人
 小五百人を授て二陣と。賊將皆大員千人を従へ三陣小進と。別小田理五郎と
 以者小五百人を授て遊軍と。合戦の夜合を見て敵の本陣と劫り大將延繩
 矢射取よとて同道より向せり。斯手賊軍隊伍を整へ六月五日の朝柵をお
 きて玉造へ向ひける。官軍方も疾より敵の軍を渡して其準備をたし然も
 六月五日八日往亡日なる小賊徒是を不知出張とる己と滅亡を求る前表也と懐ひ
 紀古佐美小千五百人を授て先陣と二陣大伴益至一千五百人大將延繩二千
 余騎を領と三陣と。残り二千騎は玉造の城を遺して留守と衛らせり去

程小兩陣押進阿隈川にて互小往合川は溝く俣小屯を立鉦太鼓を抄螺を吹て
 双方軍威を示し合兩陣喊を發り矢合の鏑を射遠く矢軍と始りる。然も敵味
 方の飛箭の横まぎ雨の如く矢叫の聲を山河響たきまなり。矢も疎かを京
 方の逸雄の面、斯目倦た業して何時まで矢種を費とる。川を渡して雌雄を決
 せよと口小呼り抄物の兵三百余人川を颯と渡りおと喚て切てくる。金窪が勢
 得とや應と。迎合と切結び追つ返り挑まぬ。紀古佐美是をん味方討と
 續やと下知する。小徒の残る一千二百人。小川へ入る。大浪のちりり川を渡り陸上
 する。敵軍小代てくる。其勢ひ猛烈なり。をえより小勢の賊兵三増倍の太軍小
 捲りまねあらし兼て三三町引退。わと京軍勝小乘と追ま。切進くる。敵兵
 八野武士山賊の集勢。わと兇勇あれども軍の進退不鍛煉なれ。足並揃は。隊伍と
 乱。弥敗色小なる。然も金窪兵太と京將古佐美を討んと百人半を従へ。路と



皇統七通會後宮圖卷下



世麻呂賊將
金窪兵太
勇と揮て
京軍を
責破る

金窪兵太

皇統七通會後宮圖卷下

廻つて古佐美が旗本(馬)躍せて撃つてうを。例の條鉄棒を打揮く人も馬も嫌ひなく撃殺せしむ。古佐美が勢大に強た二人が少悩され死亡の者數多し。用ひ廢て乱れ古佐美も金澤が饒勇小敵が馬と拍て避退た積兵の射人小命して矢續射せしむ。兵太吏もせんと鏝を傾けて尚も縦横小蒐廻りく敵を射殺せしむ。十七八騎小及びる。流箭射来つて兵太が咽輪のりきと大吏の手あれし。常の者あり。其後落馬とたれ。無双の剛兵あれし。猶も瘡ます敵軍を滅多し。小撃手廻る。是に依て京軍鬼神のて。怖く皆遠く逃散。今午小と敵一人もたれ。兵太息なく吐く。矢痴の痛堪がれ。即黨添川鬼太。二人者小佐へて戰場を退れ。大将如是かれ。残兵強を左往左往小敗せり。京方の二陣大伴益三。遙の川下より渡りて敵の後より撃たれ。栗原源三前後の敵小途を失ひ進退究てあや射る。ぐんえ。小賊方二陣。膳沢悪太郎五百余騎を

魚鱗小備(煙嵐)と巻て強まり。悪太郎真先小馬を進めて益三が勢小會教もなく撃つてうを。當る。幸小切て落せ。おぞ。麾下の士平們も是に勵まれて敵を打する。是に強たて。益三が勢強た。えんが栗原源三。蘇りたる心地。膳沢と一隊小成て敵小あつる。小依京軍足場を追捲き。あけ渡りて。えん。大将経繩ハ敵方の旗色の整り。かんで心怒り。斯許の小敵小勝得る。吏やあると隊を押し出さんとする。ところ小賊方の遊軍田理五郎何國より廻り。えん五百余騎小。経繩が陣の後より。へん。小依。経繩強た。お。士率と下知と。是に防がせ。國岳源吾門苗六郎。小二十騎を授て。先陣の味方と。佐の。自身。二十騎。お。田理が勢と挑む。戦ひ。多。國岳。兄弟二人。心を一致。小。二十騎を引率。馬。真先小。進。川を渡り。味方の勢小。弛加り。えん。古佐美。益三が勢。是に小氣と。整平。又敵を追え。えん。小勢。小賊軍數刺の戦ひ。小疲。上敵。新兵。加。り。心。散。小。撃。手。肩。戦。死。數

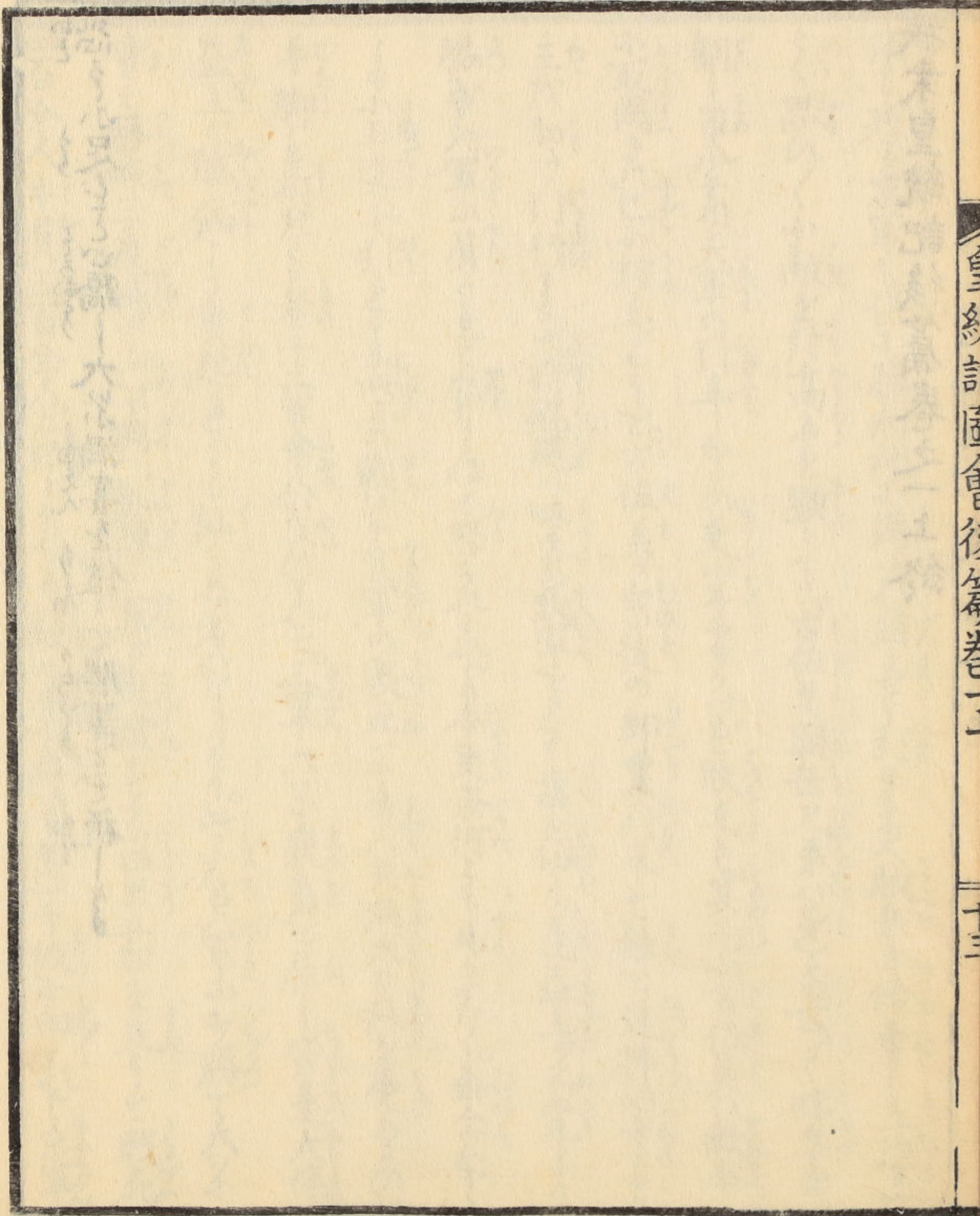
ちもど戦の十が難義かりける小賊方の大将伊治皆名二千騎の新兵と九隊と
 つちけりあけ 追来り敗れる味方の千率と左に打拂ハセ大い喊を並て龍襲来る
 土煙を揚ぎ 追来り敗れる味方の千率と左に打拂ハセ大い喊を並て龍襲来る
 京軍小軍合此皇官先小軍と四入寺の太刀と電光のどく閃く敵を斬度草を
 薙如くあれ京軍其太刀風小辟易又三段引退る去程小敵味方入乱と此処
 小乗ちく彼所小追回敵陣ハ味方の陣とかり討つ討つ戦入程小川原乃四
 面ハ一場の修羅道となり馬煙ハ天を曇り足音ハ地小真き敵味方の死尸ハ
 累くとして屠所の肉のどく流る血汐ハ滔くとして紅葉と浮り小異るハ
 属ハ棋戦かり此時惣大将継繩ハ田理五郎が勢強難かり捲り互敵將五
 郎と討取られ残率ハ八方敗来り手小敵も無かりける也此勢ハ小川を渡
 して味方小力と添んとせとて小大伴益立六世名が為小散小伏され馬を拍
 て川を越継繩の陣近度りて大将小向ハ日もとや夕陽小及び味方の千員戦

先も多く戦ひ疲ていむ合戦ハ是迄かと軍と収り更強し今日小限る戦ひ中て
 もいす夜小入カを敵ハ地理小精りたるを恐るる退口難義小いなりと言ふハ継
 繩勃然と大い怒り是ハ臆病未煉あるやまれ余ハ合戦ハ己小味方の勝色
 あり今賊軍の疲を伐むん何日勝利を得る期ある甲冑の卒止おせとて
 とと叱り耻しめる小益立赤面して口の裡小つた戰場ハ向つて鈍く玉造ハ
 と引取る此時賊方ハ大軍の京勢小惚くこ小敗色をえける小益立が千勢ハ至將
 のこそざる小周障ハ主人如何と戦死ある小小非るつと敵小向ん小とせと
 騒立くる此ハ呂膳沢栗原以下是をえり味方ハ励一浪波敵ハ引色ある
 と此機を絶た伐やと呼り宗徒の者も真先小ま狼狽る大伴が勢と落花
 微塵小ちまを戦ひ疲き賊兵是小機を撃つ勢ハ在俱小敵を追搦す
 小益立が千の者いやく騒だ乱散小敗来り我先小と川を巡渡りける是ハ

依て残る京軍も俱小臆病神小誘はれ崩さる引るも賊兵と信勇も追ま
 く思ひく小敵を討高名を顕る古佐美國岳兄弟身もあさる味方を
 制し軍を大軍の引率より更小耳もあさる敗走を其間小古佐美の敵平
 小取圍まれ已ふ討るる古佐美が宗徒の即黨引交と敵と追拂い幸と
 主我助けに行行る大将経繩の味方の敗軍と見く齒を切り是益を不覚より
 勝る軍小肩をもど安らねと怒られれ今更奈何も為る無念を
 と小玉造と引る此日の戦い小官軍の戦死一千余人矢海太刀海を受あひハ
 千脚を折れる者千二百余人及びびれ二軍大不脱氣を屈し皆是大伴
 益を臆病より更起ると知らぬ者ハハる此日大呂八軍小勝て大い小
 勇と勝喊三度揚て己が柵凱陣軍と點檢する小田里五郎を先くと戦死
 四百余人千負三百余人と記る敵の首と得る更二千級小向れを京軍

此心も小足ごとと心瑤一大小酒宴を催て勝軍とど祝する

扶桑皇統記後篇卷之一上終



名古屋
大曾根 矢野平兵衛藏版之内佛書目

宗門無盡燈論	二冊	法華經	八冊	壽量品經	一冊
槐安國語	五冊	同要品	一冊	般若心經	一冊
同骨董稿	<small>刻近</small> 二冊	般若理趣分	一冊	同訓讀	一冊
禪門寶訓	二冊	金剛般若波羅蜜經	一冊	諸陀羅尼	一冊
禪林句集	<small>刻近</small> 二冊	首楞嚴神咒	一冊	地藏經訓讀	一冊
四部之錄	<small>刻近</small> 一冊	三經合本	一冊	御嶽山權現經	一冊
毒語註心經	一冊	觀音普門品	一冊	大道神祇大祓	一冊
碧巖集	<small>刻近</small> 十冊	同訓讀	一冊	神道中臣祓	一冊
六祖壇經	<small>刻近</small> 一冊	半僧坊大權現經	一冊	同六根祓	一冊

